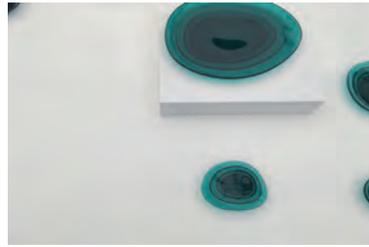




撮影・Alessandro Russotti



発行日 平成30年7月11日

発行者

富山・ミラノデザイン交流倶楽部

高岡市オフィスパーク 5

公益社団法人富山県デザイン協会内

TEL.0766-63-7140

執筆 池田美雪 \* ミラノ在住

## ミラノサローネの新たな出発の年

第57回ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)は、4月17日から22日までの6日間、今年も華やかに開催された。今年は、ロー本会場は元より、ミラノ市内のあらゆる場所が我が目を疑うほど多種多民族の人波で埋め尽くされ、いかにこのイベントに対し世界中から多くの関心が寄せられているかを実感する機会となった。

ロー本会場への来場者は、188カ国以上から43万4509人、同じ隔年開催見本市が開催された2016年と比べ17%増、前年比26%増を記録した。

出展企業数は、サローネ国際家具見本市、サローネ国際インテリア小物見本市、エウロクチャーナ(キッチン関連)、サローネ国際バスルーム見本市を併せて計1,841社(その内、国外33カ国からの出展27%)、サローネサテリテには650名のデザイナーが参加した。

会場は初日から熱気に包まれ、広大な展示空間はあらゆる素材、形、色に溢れ、光の演出も相まって来場者を圧倒した。イタリア国外へ多くの製品を輸出する国際家具メーカーから中小企業まで、ほぼ全てのイタリア企業が出揃っている見本市だが、今年初めて出展を決めたのは、1800年代より7世代に渡り最高級の職人技を築き上げてきた家具メーカーPromemoria社である。そして、2015年にDe Padova社を買収したBoffi社もDe Padova/Boffi社として20年以上振りに復帰し、参加企業リストに華を添えた。

大手家具メーカーとのコラボレーションで新製品を発表した日本人デザイナーの活躍も見逃せなかった。2年以上かけて製品化したチェアをKartell社から発表した吉岡徳仁、De Padova/Boffi社のソファBlendyをデザインした田原臣、ARPER社よりPIXシリーズを展開し続ける岩崎一郎。日本企業は、サンワカンパニー、飛騨産業、マルニ木工、リッツウエル、カリモクスタンダードが今年も出展した。

Salone del mobile.Milano 2018のプロモーション・ビデオはこちらからご覧下さい。

[youtu.be/82M2o42RuhE](https://youtu.be/82M2o42RuhE)

吉岡徳仁へのインタビューのビデオはこちらからご覧下さい。

[youtu.be/-bAkiwjLXHw](https://youtu.be/-bAkiwjLXHw)

PROMEMORIA社のミラノサローネ出展の様子をまとめたビデオはこちらからご覧下さい。

[youtu.be/zQk7QOtxLml](https://youtu.be/zQk7QOtxLml)



[www.designboom.com](http://www.designboom.com)

吉岡徳仁デザイン、Kartell社のMatrixチェア。



[www.promemoria.com](http://www.promemoria.com)

今年ミラノサローネへ初めての出展を決めた、PROMEMORIA社の最高級家具。



[www.sanwacompany.co.jp](http://www.sanwacompany.co.jp)

ミラノサローネ・アワードを日本企業として初めて受賞したサンワカンパニー社のブース。

## プレス発表会

見本市開催に先立ち、2月7日にミラノ市内にあるBocconi大学のシアターで、プレス発表会が行なわれた。壇上には、ミラノ市々長Sala、国際的に活躍するイタリア人デザイナーPiero Lissoni、Stefano Boeri、Fabio Novembreが招かれ、デザイン環境やミラノ市の現状、将来への展望などについてそれぞれが熱く語った。

第57回目の今年は、ミラノサローネの新たな出発の年と位置づけられ、会長Claudio Lutiより第1回マニフェスト(宣言)が発表された。この宣言は、ミラノ市とミラノサローネを成功へと導いてきた全ての関係者に対する敬愛だけでなく、新しい考え方とシステムやプロジェクトのやり方に対する意思表示も意味している。

ミラノサローネへの再認識を促すこの宣言は、ミラノサローネが今後ミラノ市との相互関係をより強化し、更なる国際化を目指し、ミラノ市に近い将来いくつかのデザイン・プロジェクトを実現させることを踏まえ、そのリーダーシップの役割を維持することを約束する文書でもある。

ミラノサローネは、業界関係者だけでなく、一般の人たちも一度は訪れたいと思う唯一無二のイベントへと発展してきたが、それは6日間の開催期間のために1年間を通して、建築家、デザイナー、企業、イベント主催者が、最高のステージを提供するという目的を共有し、一丸となって準備を行なってきたことに対する成果である。独自に作り上げてきた、つながりや創造性、イノベーションのシステムをフルに活用し、準備段階も含め関係者みな「感動」を抱きながら作業を進めるのである。

マニフェストのキーワードは、「感動」「企業」「品質」「プロジェクト」「ネットワーク」「若者たち」「コミュニケーション」「文化」「ミラノ」。この一つ一つが国際家具見本市を構成する大事な要素である。その中でも「企業」は、ミラノサローネが提供する1年サイクルの生産システムを活用することで、革新的でクオリティーの高い製品を発表する恩恵を受け、互いに良い相乗効果をもたらしている。デザイン、生産、クオリティー、イノベーション、街、バリュー、という流れも、ポジティブな連鎖と言える。また、これからの「品質」はサステイナブルを無くしては考えられない。それは素材のリサイクルを考慮するだけでなく、生産プロセスの全てを管理することを意味している。次回の国際トリエンナーレ博覧会では、デザインの持続可能性と本質的な品質が取り上げられるが、それに先駆けて今年の特別展示として、街の中心地に自然との共生をテーマにした「Living Nature. La natura dell'abitare」が開催された。このように、マニフェストはミラノサローネが積み上げてきた功績を再確認し、更にミラノ市と共に今後の発展につなげていくためのスタートラインを示した。

今年は5年振りにインターナショナル・プレスツアーが開催され、世界各国から60名以上のジャーナリストがツアーに参加した。2月7日のプレス発表会後は、Achille Castiglioni生誕100周年の記念展を開催前に見学。そして翌日は、イタリアとドイツからサローネ国際家具見本市やエウロクチーナに出展する16社のプレゼンに熱心に聞き入った。



提供・Salone del Mobile.Milano

2月7日にBocconi大学で行なわれたプレス発表会の様子。



www.internimagazine.it

Fondazione Achille Castiglioni内で開催された、デザイナーCastiglioniの生誕100年を祝う展覧会「100x100 Achille」の様子。



living.corriere.it

フェラーリのアートディレクションを務めるLapo Elkannが昨年オープンさせたGarage Italiaで、プレス・ディナーが開かれた。

## サローネサテリテ 「到来するデザイン」

第21回サローネサテリテは、世界中から650名の若手デザイナーが、伝統と同時代性の関係、新技術と職人技術のバランスをテーマに完成度の高い作品の数々を披露した。

また、この会場内では、「Africa / America Latina: Rising Design – Design Emergente」と題され、南半球

にスポットライトを当てた、アフリカとラテンアメリカの創造性とデザインが融合するインスピレーションが展示された。ラテンアメリカの展示は大陸の人々の社会復帰支援活動に携わるCampana兄弟がキュレーションを手掛け、アフリカの展示はフランス系モロッコ人デザイナーでアフリカの新世代クリエイターの発掘を推進するアワード、Africa Design Award & Daysの創設者、Hicham Lahlou が手掛けた。この企画は、現代の社会や環境のニーズに対応しながら、未来に向けて情報に富んだ生活のヒントを与えるために、土地の固有のデザインと現代に適応しうるアイデアを模索するものとなった。

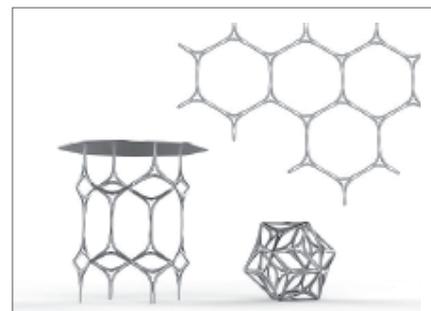
その多くが既視感を感じさせる若手デザイナーの作品展示を見て回る中で、新鮮さを感じた作品が3つあった。1つは、木材に鮮やかなカラーの樹脂を流し込み、その技術を家具やインテリアアクセサリに発展させたスイスのデザインスタジオAtelier Insoliteの作品群。マニファクチャーを感じさせる木工の表情と樹脂の冷たくも美しい素材感が妖しい魅力を発していた。台湾から参加したHSIANG HAN DESIGNは、エンジニアとデザイナーのデザインユニット。同じ形のパーツの組み合わせによって異なる機能性を生み出すUNDEFINED Yは、複数のパーツをビスで止めるだけでテーブルや照明器具に変換できるモジュールシステム。3Dプリンターで制作されたというプロトタイプは、その軽やかさが周りの空気感を変えていた。ベルリンのデザインユニットCASE STUDIESは、ニット生地の色を研究デザインし、それらを家具やセーターに応用。感覚的に捉えられる色をデジタル技術で検証し、精巧な伝統技術を用いた手作業により数々のアイテムを作り出している。縦糸と横糸の異なる色使いで、思いがけないテクスチャーが生まれるという。



Atelier Insoliteの展示ブース。www.atelierinsolite.ch



色のグラデーションが美しい作品が展示された、Case Studiesのブース。www.thecasestudies.com



パーツの組み合わせ方により、異なる機能を備えるHSIANG HAN DESIGNの作品。www.hsianghandesign.com

## 「第9回 SaloneSatelliteアワード」

第9回を迎えるSaloneSatelliteアワードは、開催から2日目に授賞式が行なわれた。今年度の審査員は、デザインそのものに重きを置かず、サステナビリティやコミュニケーション性、大人と子供の生活に不可欠であるインタラクティブで遊びの構成要素を含んだ3作品に、将来への希望を託し賞を授与した。

1位を獲得したのは、イタリア人デザイナーStefano Carta Vasconcellosが制作した、ビスを使わず組み立てができる軽量のキッチン「Cucina Leggera (Light Kitchen)」。誰の手にも届く価格、そして簡単な作りなど、将来を見据えたアプローチが評価された。2位は、子供の感覚的な発育を促すプロダクトをデザインするクロアチアのTink Thingsが制作した椅子「Tink Things」。子供たちが持つ、遊びと感覚に対する要求をよく理解し、健やかで自覚を伴った成長を刺激する点が評価された。3位は、日本人デザイナー氷室友里が cotton の糸を組み上げて制作したやわらかいブロックユニット「Soft Block」。使い手の相互性と創造性を促し、作品自体は完結したものではないが、パーツの組み合わせに無限の可能性を持たせている点、布の斬新な使い方などが評価された。そして、文化遺産ヨーロッパ年賞は、フィンランドのデザイナーSakari Hartikainenが制作したテーブルSavojaが受賞。エコロジーと見た目の美しさのバランス、北欧とアジアのデザイン領域で継承されてきた伝統工芸を現代的に熟成させ、エレガントに表現したことが評価された。最後に、Intesa Sanpaolo銀行賞は、メキシコのデザインスタジオMutarqが制作したブックシェルフ「Claro」が受賞。軽量、単純、組立てと輸送の容易さ、安価、というサステナビリティ性の基本要素を全て満たしている点が評価された。



第21回サロネサテリテ会場の様子。

撮影・findinGALILEO



サテリテアワード一位を獲得した「Light Kitchen」。

撮影・findinGALILEO



二位を獲得した「Tink Thinks」と受賞者。

撮影・findinGALILEO



三位を受賞した氷室友理と作品「Soft Block」。

撮影・findinGALILEO



Intesa Sanpaolo銀行賞を受賞したMutarqと「Claro」。

撮影・findinGALILEO



文化遺産ヨーロッパ年賞を受賞した Sakari Hartikainenと「Savoas」。

撮影・findinGALILEO

## 「Living Nature. La natura dell'abitare」

今年の特別展示として、4月17日から25日まで、ミラノ大聖堂広場にて、現代生活の中でのサステナブルの可能性を考え直すことをテーマに、自然と緊密な関係を体感するエキシビション「Living Nature. La natura dell'abitare」が開催された。創造力とイノベーションがいかに自然と「尊重」「統合」といった観点から折り合うことができるか、という、デザインしていく上で基本となるテーマを扱い、その中には省エネや素材の使い方、サステナブルで再利用可能かつ汚染のない技術などが含まれる。エキシビションは国際的に活躍するデザインとイノベーションを扱うCarlo Ratti Associatiと共に企画、実現された。

広さ500平米のパビリオン内部は春夏秋冬を再現した4つの隣接するスペースに区切られ、省エネを基点としたコンセプトから設計された空間は、来場者が四季それぞれの自然とその変化を体感できる機会を与えた。

技術面では、パビリオン全体に1つの冷蔵庫としての機能を持たせ、雪を保存する冬のエリアから排出される熱を夏のエリアで再利用されるなど、4つの異なる気候の調整システムが同時に可能となるエネルギーの流れが作り出された。それぞれのエリアには、時代ごとのアイコンであるデザイン作品が展示され、これからの住環境、あるいは公共スペースへの示唆を与えるものとなった。

Living Natureのダイジェスト・ビデオはこちらからご覧下さい。

[youtu.be/dDGAYs-\\_Z9Q](https://youtu.be/dDGAYs-_Z9Q)



撮影・Saverio Lombardi Vallauri

ミラノ王宮と大聖堂にまたがる広場に設置された、「Living Nature」の展示会場。



撮影・Saverio Lombardi Vallauri

「春」を再現した空間。



撮影・Saverio Lombardi Vallauri

「春」に隣接する「冬」を再現した空間には、本物の雪も展示。

ミラノサローネの閉幕にあたり、会長Claudio Lutiは次のようにコメントを述べた。  
「ミラノサローネ出展企業のクオリティーの高さが、ミラノサローネをこの業界で世界の基準点へと押し上げ、この見本市を成功へ導いたことを大変誇りに思う。産業と行政が協力し合い、文化と企業がイタリアを牽引し、唯一無二のイベントを生み出している。まるで劇場の舞台のように訪れる人を虜にする空間展示を通して、クリエイティブで革新的で質の高いプロダクトが会場を埋め尽くした。そして今、企業とマーケットの需要に応えリーダーシップを維持しながら、すでに次の開催に向けての準備に取りかかっている。」

企業とミラノ市の継続的で緊密なコラボレーションにより、政府と行政機関は毎年ミラノサローネとイタリア家具業界に対し支援を行なっているが、その成果として、この見本市がイタリア経済の原動力の一つとなっていると言えるだろう。

## MILANO DESIGN WEEK — 着実にブランド力を増す日本企業

ミラノサローネの開催期間中、ミラノ市内でMILANO DESIGN WEEKが同時開催された。個人的な感想だが、これほど大きなスケールで短期間だけ街の様相が変わるイベントも他にないのではないかと思う。デザインイベントなのだが、デザインに関係のない一般の人たちも会社帰りにショップの新製品を眺めたり、イベント会場を家族連れで訪問したり、とにかくこの6日間はどこを歩いても何か特別なものに出会える楽しみが待っている。この時期、外国人訪問客の割合がとても高く、ミラノにいながらミラノではないような特殊な空気が漂うのもとても面白い。行き交う人々の香りが瞬間ごとに変化する。年々増えていくイベントの数は1500とも言われ、すでに数えきれない域に達したようだ。それだけに、毎年のように見て回るエリアを決めかねるのだが、今年は定番のエリアに加え、アジアのデザインを集めたイベントASIA DESIGN PAVILIONがナビリオ運河の近くで開催され、また、Ventura Projectがミラノ市内東エリアに新しい拠点を設けるなど、6日間では到底回りきれない。

そんなイベントジャングルの中で、ひとときわ輝いたのはやはり日本からの出展であった。他国企業が製品紹介に偏る展示を行なうのに対して、日本企業はアートインスタレーションという形で企業姿勢やブランドイメージを訴え、来場者の心にしっかりとメッセージが届く構想を最新技術を駆使して表現し、このイベントの牽引力となっていると言っても過言ではない。

1500ものイベントの中から第8回Milano Design AwardのMiglior Tecnologia賞(最高技術賞)に選ばれたパナソニック株式会社は、国立ブレラ絵画館で「Air Inventions」と題したインスタレーションを行ない、来場者を魅了した。トルトーナ地区のSuperStudio内では、毎年注目を集めるデザインスタジオNendoが「Forme in movimento by Nendo」と題し、「動き」をテーマに10社とコラボレーションした10のプロジェクトの展示を行なった。黒塗りの巨大な箱の展示会場の前には、熱い日差しの中、入場者の長蛇の列ができていた。ソニー株式会社は、同じくトルトーナ地区にて、五感に訴えるテクノロジーを5つのケーススタディーに表現したインスタレーション「隠された感覚(Hidden Senses)」を開催。このインスタレーションは、第8回Milano Design AwardのAllegria賞(愉快賞)を受賞した。トリエンナーレ美術館では、セイコーウオッチ株式会社のブランド、グランドセイコーのインスタレーションが行なわれた。自然の移ろいで「流れる時」を表現したスクリーン映像と、「スプリ



国立ブレラ絵画館の中庭に設置された、パナソニックの体感型インスタレーション「Air Inventions」の外観。



第8回 Milano Design AwardでAllegria賞を受賞したSonyのイベント「Hidden Senses」の展示風景。



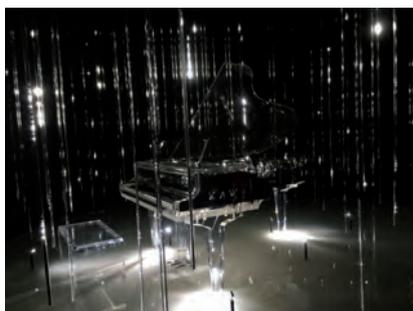
Nendoの展示会場前に並ぶ、大勢の入場者たち。

「グランドライブ」ムーブメントの部品を封入した透明なオブジェ12体が、光と色の呼応を生み出し、グランドセイコーの思想を表現。来場者は緩やかに変化する空間に身を置き、その時の流れを静かに感じ取っていた。河合楽器製作所は、90周年を記念して今年初めてミラノデザインウィークに出展した。SuperStudio内に設置された黒い壁面の空間には、新しいピアノのあり方を呈示するインスタレーションとして、クリスタルガラスで構成されたグランドピアノが展示された。キラキラと輝くグランドピアノは自動演奏され、来場者の目と耳を楽しませていた。2015年より出展を続けているAGC旭硝子は、ミラノ中央駅高架下に設けられたイベント会場Ventura Centraleにて、「音を生む」ガラスを世界に向けて初披露した。クリエイションパートナーの日本人建築家萬代基介による体験型のガラスインスタレーション「Soundscape(サウンドスケープ)」は、空間を回遊しながらガラスが発する独特な音を感じ取る空間となった。7年前よりミラノデザインウィークに出展を続けている、東京を拠点に活動するデザインスタジオYOYも多くの来場者を刺激していた。新作3点に加え、今回別バージョンが発表されたCOTODAMA Lyric Speakerは、音楽と同期して歌詞が表示される次世代型のスピーカー。2枚の板から成るミニマルなルックスからは想像できない機能は、外国の若い世代が抱く日本のデザインのイメージそのものだったようだ。横浜市内に工場を構える金属加工会社が集まり、各社の技術を組み合わせたもの作りを行なうブランド「YOKOHAMA MAKERS VILLAGE」は、各社の高い技術を互いに活用しながら制作した金属製のホームアクセサリーのコレクション「REFLECTION/SHADOW」を発表した。一つ一つの作品が小さな単体ながら、力強いエネルギーを放っていた。



撮影・大木大輔

セイコーウォッチのインスタレーション「THE FLOW OF TIME」会場内の様子。



河合楽器が制作したクリスタルグランドピアノの展示風景。



撮影・古川泰子

前面のパネルに歌詞が表示される、YOYデザインのCOTODAMA Lyric Speakerスピーカー。

パナソニック、Nendo、Sony、セイコーウォッチ、河合楽器、AGC旭硝子のイベントを紹介するビデオは下記よりご覧下さい。

パナソニック	<a href="https://youtu.be/33xDcg3_Amk">youtu.be/33xDcg3_Amk</a>
Nendo	<a href="https://youtu.be/eDAaz1ys5qs">youtu.be/eDAaz1ys5qs</a>
Sony	<a href="https://youtu.be/gr_-U8zN0J8">youtu.be/gr_-U8zN0J8</a>
セイコーウォッチ	<a href="https://youtu.be/J7BoGsWg8AI">youtu.be/J7BoGsWg8AI</a>
河合楽器	<a href="https://youtu.be/b1Uq7Ov-4Vw">youtu.be/b1Uq7Ov-4Vw</a>
AGC旭硝子	<a href="https://youtu.be/tUv_BIZni9I">youtu.be/tUv_BIZni9I</a>

ここ数年、メーカーの新製品発表や大企業のインスタレーションに押され気味な、アート作品や職人技術を活かしたデザイン作品の展示だが、職人学校を有するイベントエリア5vieは敢えてそれらをバックアップしていた。昔のままの入り組んだ路地では、緑の生い茂る瑞々しい中庭や職人たちの工房が展示会場になり、メジャー路線とは異なり、一つ一つが個性強く、手の技術を生かしたクオリティの高い作品が見られた。

また、テーマとして面白いと感じたのは、インテリア雑誌Elle DECORが主催し、リサーチ会社Future Concept LabとのコラボレーションでBovara宮殿で実現したイベント「Onlife.Millennials at Home」である。今の20歳から40歳までのジェネレーションを年齢別に4つのカテゴリーに分け、デジタルネイティブである彼らのライフスタイルを具体的に空間として提案したものであった。

Isimbardi宮殿の中庭に出現した、ファッションメーカーCOSとアーティストPhillip K. Smith IIIの鏡を使ったインスタレーションは迫力のあるアート作品であった。作品の表面には、会場となった1500年代の建物や青い空が映り込み、格好の自撮りの人気スポットとなっていた。



5vieの一角で行なわれた、オーストリアのアートプロモーション団体 Schloss Holleneggによるインスタレーション「ARCADIA」。今年選ばれた新人アーティストは、イタリア人のSara Ricciardi。



デジタル・ネイティブ・ジェネレーションのライフスタイルを提案するElle DECORのイベント会場の様子。



Isimbardi宮殿の中庭に設置されたPhillip K. Smith IIIのインスタレーション。



若手デザイナーたちによるデザイン作品の紹介・販売は、ISOLA地区のMilan Design Marketで開催された。

今年は、特に際立った流行は見られなかったが、ミラノサローネが国際規模のイベントとして確実に定着し、今後も様々なデザインとイノベーションを世界に向けて発信する舞台となるに違いない。

## 執筆者 略歴

池田美雪 インテリアデザイナー

武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒

Istituto Europeo di Design 建築インテリア科卒

1994年よりミラノ在住

主に個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わる

現在、デザイン・アートに関するコンサルタント、コーディネイト、翻訳および通訳に携わると共に、

クリエイティブ・コンサルティング会社（デジタルゲーム、ウェブサイト、グラフィックデザイン）の共同経営者として活動